昭和59年　第924号
11月11日

市報 にいがた

市の人口
前月比
人口 463,720(+342)
男 227,022(+165)
女 236,698(+177)
世帯数 150,782(+154)
59年9月末現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話 (28)1000
編集 企画部広報課
印刷所 ㈱第一印刷所

風邪で発熱が大部分

利用の7割は小児患者

夜中に突然子供が発熱したとき、特に初めての子供のときは、とても不安なものです。白山浦二丁目にある「市医師会休日急患診療センター」では、昨年度の急患約六千五百人のうち、七割が小児患者で、このうち大部分が風邪によるものでした。

このため、同センター小児科の中野博医師は、風邪のシーズン前に、子供たちにインフルエンザの予防接種を受けるよう勧めています。

日曜日・祝日に救急患者を診療している市医師会休日急患診療センター（鏡淵小学校西隣）では、昨年度一年間で六千四百七十一人の急患を診療しました。

昨年度の同センターの診療日数は六十五日間でしたので、一日平均百人前後の市民が同センターで診療を受けたことになります。

このうち七割が子供で、大部分が風邪による発熱でした。

同センターがオープンしたのは、昭和四十八年四月。以来十二年間、休日の朝から夜まで、急患の診療にあたっています。五十四年度以降、急患が七千五百人前後と多かったものの、昨年度はインフルエンザの大流行がなかったため、千人近くも大幅に減りました。

同センターでは「体の具合が悪くても医者にかからずに数日我慢し、休日になって我慢しきれず飛び込んで来る患者さんが多い。我慢を重ねず、なるべく早く平日のうちに、かかりつけのお医者さんに受診して欲しい。センターに来るときも、終了時間間際でなく、早い時間に」と早期治療を呼びかけています。

なお、同センターでは、内科と小児科が診療科目ですが、これ以外でも、来所すれば、他の医療機関を紹介するそうです。

風邪なんかふき飛ばせ！（八千代保育園で）

インフルエンザは予防接種が一番

同センターで小児科の診療をしている中野博医師の話

昨年度の小児患者四千五百三十八人のうち、四十三人を二次救急病院に移送しましたが、残りの九九%は軽い症状でした。

大部分が風邪による発熱で、以下、下痢、腸炎、おたふく風邪、水ぼうそう、気管支炎、自家中毒の順になります。

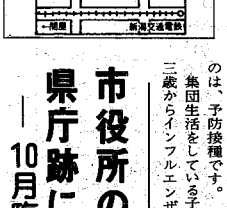
毎年一～三月は、インフルエンザが大流行します。予防法として①人込みを避ける②日ごろから栄養と体力をつける③外から帰ったら手を洗ったり、うがいをする―などがありますが、一番効果があるのは、予防接種です。

集団生活をしている子供は、三歳からインフルエンザの予防接種を受けることができるので、体調の良い人は、ぜひ、受けて下さい。

インフルエンザ予防接種日程は二、三面にあります

休日急患診療センター

市医師会
休日急患診療センター
白山浦2―180―5
（市医師会メジカルセンター内）
診療科目　内科・小児科
（日曜日、祝日の午前9時～午後10時半）
☎31―4135



市指定文化財 ②

川村奉行着用甲冑（かっちゅう）

（文化財の種別）有形文化財（歴史資料）
（所在地）新潟市緑町三四三七番地　新潟市郷土資料館
（管理者）新潟市郷土資料館
（寄贈者）川村清衛氏（神奈川県座間市在住）
（川村奉行関係資料）
天保十四年（一八四三年）、新潟町は、幕府直轄（ちょっかつ）領となり、川村修就（ながたか）が、新潟奉行に任命された。修就は、足掛け十年、新潟に在勤し、砂防のための松苗植え付け、消防制度の整備など、多くの功績を残した奉行である。

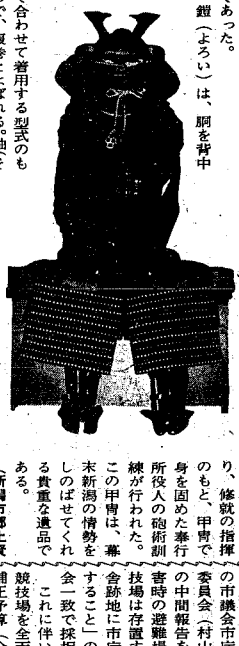
川村奉行の遺品とその文書は、昭和五十一年、奉行の曾孫川村清衛氏から、新潟市が寄贈を受け、五十三年、市文化財に指定された。今回また、その後に寄贈を受けた幕末新潟の風俗絵巻一巻（あまの手振り）と、奉行の着用した「甲冑」の二点が、「川村奉行関係資料」に追加指定になった。

（説明）

川村家では、修就の遺品の中でも、この甲冑は、特に家宝とされ、修就が三百両の大金を投じて高名な甲冑師、明珍（みょうちん）に作らせたと伝えられている。ちなみに、新潟奉行の年俸は、米二千俵、金に換算して約七百六十両程であった。

鎧（よろい）は、胴を背中で合わせて着用する型式のもので、腹巻とよばれる。袖（そで）や裾（すそ）などの小札（こざね）は、勝色（かちいろ）といわれる濃紺のひもでつづり合わせてあり、このひもの色から勝色糸威（おどし）の腹巻とも呼ばれる。

兜（かぶと）は、正面中央に丸い蛇の目、両脇には獅（しし）子頭を大きくこしらえた星兜（こざねかぶと）形の立ち物をおき、鉢のまわりは、金箔の鋲（びょう）で飾られている。



そのため、海岸では、時おり、修就の指揮のもと、甲冑で身を固めた奉行所役人の砲術訓練が行われた。

この甲冑は、幕末新潟の情勢を物語る貴重な遺品である。

（新潟市郷土資料館）

市役所の移転先 県庁跡にゴーサイン

―10月臨時市議会―

が日本沿岸に出没し始めた時期に当たり、異国船の攻撃から新潟湊（みなと）を守ることは、奉行の重要な任務の一つであった。

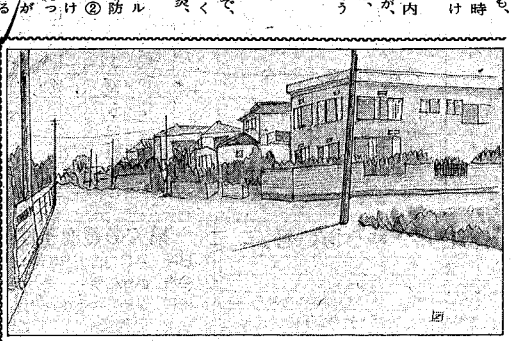
十月二十九日に開かれた臨時市議会は、①市役所の移転先を県庁移転跡にする②県庁舎跡の譲渡価格を県と市で合意に達した四十九億四千八百五十九万円とする、市長方針を全員一致で了承した―との市議会市庁舎建設調査特別委員会（村山勇一郎委員長）の中間報告を受け、「非常災害時の避難場所として陸上競技場は存置すること」「県庁移転後、分館の改修に入り来年中には一部移転。市制施行百周年にあたる昭和六十四年完成を目指し、本館の跡地に、議会棟と窓口部門を含めた一部行政棟を建設する予定です。

現在の市庁舎は昭和三十三年に建てられたもので、業務の拡大などから、商工労働部や教育委員会などは別の建物に分散しています。

市庁舎建設については、陸上競技場を鳥屋野潟南西部に移転新築し、その跡地に建設する計画で検討を重ねてきましたが、厳しい財政状況のなか、駅前開発や新田ごみ焼却場、美術館、千歳大橋の建設などの大型プロジェクトを計画通り推進し、市民サービスを低下させない」方針で、計画変更するものです。

これにより、来年六月の県庁移転後、分館の改修に入り来年中には一部移転。市制施行百周年にあたる昭和六十四年完成を目指し、本館の跡地に、議会棟と窓口部門を含めた一部行政棟を建設する予定です。

十万円）も可決されました。



私の散歩道 ㊼

わが街　こばり

道の尽きた所、小針本村の大きなケヤキの保存樹が連なり、その枝を通して金粉をまき散らすように朝の陽が昇り始めるとカッコウの声が力強く響きわたる。

家々から西南の方向に弥彦、角田の山々が朝夕眺められるこの街この通り、年々家が建ち並び、街の様子も変わりつつある。

この通りも六、七年前までは悪路で、雨降りの日は大変だったが今は舗装されてすっかり変わった。

小針は春から夏にかけて霧のたちこめる朝が多く、蟲絵のようにかすんだ風景の中に、汽車の通る音が無性に詩情をかきたてる。

小黒　普三郎（72歳、小針）

「私の散歩道」原画展　明十二日から二十四日まで、第四銀行本店一階ロビーに、四月から九月の間に掲載された二十七点を展示します。

看護婦などと市職員募集は四面にあります

開公緑町マンション分譲中

場所　緑町三四三七～一四（郷土資料館近く）
問い合わせ　市開発公社（☎23―二六一二）へ

小品盆栽の手入れ

日時　11月18日午後1時15分～3時15分
会場　園芸センター（越後石山駅近く）
定員　50人（先着順）
持参品　20センチ以内の小品盆栽を1鉢
申し込み　電話で会場へ

税を知る週間（11月11日～17日）
税の相談コーナー

月日	会場	時間	内容
11月12、13日	ダイエー	午前11時～午後2時	●税の相談コーナー ●税のパネル展 ●伊勢丹会場のみほかに開税総・県内地酒展もあり
11月12～14日	信ショッピングセンター		
11月14～17日	ジャスコ		
11月15～20日	伊勢丹		

問い合わせ　新潟税務署（☎29―2151）へ

電話案内

市役所	28―1000
教育委員会	25―1000
体育課	67―1821
野球場・テニスコートの申し込み	66―8111
火災の場所を知りたいとき	24―1111
市民病院	41―5151
園芸センター	86―1034
東保健所	43―5311
石山地区保健センター	86―4450
鳥屋野地区保健センター	85―2373
北地区保健センター	59―7332
西保健所	66―5171
西地区保健センター	62―3405
坂井輪地区保健センター	60―3255
市医師会休日急患診療センター	31―4135
県歯科医師会休日歯科診療センター	83―3030